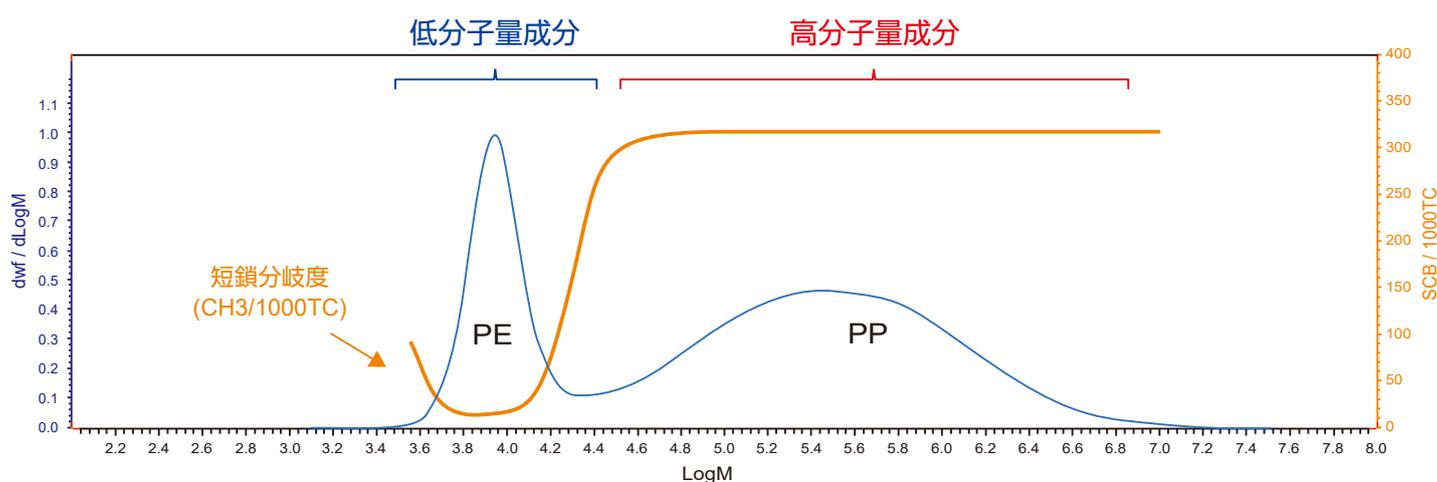


# 高温GPC-IRによる分子量分布・組成分布評価 — 組成の分子量依存性 —

ポリオレフィン材料の分子量・分子量分布は、成型加工特性や成形品の諸物性に大きく影響を与える。また近年、樹脂材料の多様化により複雑化した組成を有する材料が多くなってきている。高感度の赤外線検出器（IR 検出器）を用いた高温 GPC-IR は、従来の示差屈折率計（RI 検出器）を用いた高温 GPC 同様に分子量・分子量分布評価が可能であるのに加えて、材料の組成分布評価が可能となった。これにより、材料中の組成の分子量依存性（高分子量域と低分子量域での組成の違い等）の情報を得ることが可能である。

## ▶ 試料: PP/PE混合物

Example



分子量分布に対して、短鎖分岐度に依存性があることが分かる。

- ・ 低分子量成分の短鎖分岐度が低い → PE
- ・ 高分子量成分の短鎖分岐度が約 333 → PP

高温 GPC-IR を用いることで分子量分布評価に加えて材料の組成分布評価が可能。

この評価方法は EBR、EOR など各種材料系の実試料にも適用可能。

